

新宮地域実質化された京力農場プラン

市町村名	地域名 (該当集落名)		当初作成年月	更新年月
宮津市	栗田	新宮	令和6年3月	

1 対象地区の現状

a 地区内の耕地面積	19.80 ha
b アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕地面積の合計	10.30 ha
c 地区内における80歳以上の農業者の耕作面積の合計	1.44 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	1.44 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.00 ha
d 地区内において今後中核的担い手が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.00 ha
e 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.00 ha
(備考)	
dは、5年以内に引受意向のある面積	

2 対象地区の課題

課題

現在、当地区の80歳以上の耕作面積は1.7ha(約9%)であるが5年先には3.9ha(約20%)に倍増する見込みであり、当分の間は、ほ場整備済の農地については管理委託や壮年への農地貸借等により耕作が維持されると思われるが、未整備地をはじめ山間部に隣接する農地から耕作困難による耕作放棄地が増加することが危惧されている。

また、農地が山間地に囲まれているため深刻な鳥獣被害が出ており、一部は連続した防護柵等により集団で効率的な対策を講じているが農業者の高齢化や減少により維持管理や経費面で苦慮している。

今後さらに高齢化と農家の減少が進む中で、農地の維持だけでなく農道・水路等の施設の管理面においても、農業者個人での対応に限界がある。米価の低迷、機械・資材や燃料費の高騰で経費が嵩むことも大きな課題となっている。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

規模拡大志向農家や中核的担い手を中心に農地集積・集約化による農地利用の効率化を進める。